

H29 図書館自己点検・評価シート

中項目1 家庭教育

1 家庭教育を充実させる	A 達成又はほぼ達成している	継続	現状の内容のまま継続していく事業	全体評価 A	改善	〇自信がもてる子育て講座は、開催回数を6回から10回に増やし、講座会場に託児室を設け受講しやすい環境づくりに努めたことで、前年度より受講生が増加した。 〇家庭教育学級の活動を支援することにより、子どもを持つ保護者が子育てに必要な知識や情報を得て、子育てに対する意欲を向上させることに寄与した。 〇絵本の見開き展示や書架整理を行い、選びやすく使いやすい書架になったとの評価をいただいた。 〇協議会委員から、地区センター図書室が活性化してきたとのご意見をいただいた。 〇沼津市PTA連絡協議会と連携し、市内全小5、中2を対象に「SNSに関するアンケート」を行い、実態を把握し傾向や課題について分析を行った。 ☆家庭教育学級については、実施内容が家庭教育から離れ、レクリエーション的な内容になってしまう事例が見られたため、運営費支援については28年度限りとし、29年度については、家庭教育に関する学習会へ講師を派遣する制度に変更した。 ☆家庭教育に関わる関係他課と、これまで以上に情報交換を図り、連携を進めていく。
	B 概ね達成している	改善	改善しながら継続していく事業			
	C 遅れている	見直し	抜本的見直しが必要な事業	改善		
		完了	完了した事業	見直し		
				完了		

(4)本に親しむ

<施策の方向>絵本の読み聞かせや配布などの啓発活動を行います。各地区センターの図書室を含め図書館資料を充実し、子どもや保護者が利用しやすい読書環境を整備します。

担当課	No.	事業名	事業の目的	平成29年度の事業目標	平成29年度の事業内容	評価	成果と課題(〇成果、☆課題)	予算額	執行額
【参考】子育て支援課	7 (継)	親子絵本ふれあい事業	乳児の情操教育及び健全育成に資することを目的に、乳児へ絵本を贈与するほか、絵本の読み聞かせなど、親子で絵本を読むことの楽しさや大切さの普及啓発を行う。						
図書館	8 (継)	地域における読書活動の推進	地域における読書環境を整備し、家庭での生活や遊びの中で本に親しむ機会を提供する。	地域における読書活動推進の場となるよう、地区センター図書室の活性化を図る。	各地区センター図書室を巡回し、書架整理、レイアウト変更、図書の入替え及び予約本の配送を行った。 また、地区センター図書室巡回指導員と月1回意見交換の場を設け、地域の要望を聴き地域の実情にあった図書の整備を行った。	A	継続 〇地区センター図書室の貸出冊数が3,240冊(8.4%増)増加し、貸出利用者数は939人(9.5%増)増加した。 〇地区センター図書室を巡回し、絵本の見開き展示、図書室のレイアウト変更、地域に即した図書の配架及び予約本の配送等を行った結果、地区センター図書室担当職員からの聞き取りでは、選びやすく使いやすくなったとの評価をいただいた。 〇協議会委員から、地区センター図書室が活性化してきたとのご意見をいただいた。 〇地区センターを運営している指定管理者から業務軽減につながったとの意見をいただいた。 ☆本館と地区センター図書室との新たな物流を構築するなど、一層のネットワーク強化が必要 ☆地域ボランティアの育成	15,600,000	14,190,559

中項目4 社会教育

1 自主的な学習を支援する	A 達成又はほぼ達成している	継続		全体評価 A	継続	〇市民大学では、「人生を豊かにする」をサブテーマに様々な分野から一流の講師を招いた。会場を千本プラザからプラサヴェルデに移し定員を増やしたことで、多くの受講者が受講できた。 〇さんさんだよりについて、市民の目に留まりやすいようレイアウトやデザインを工夫した結果、市民から好評を得た。 〇市民の学習成果の発表の場として、さんさん学習フェスティバルを4部門に分け開催した。参加者が昨年度より増加し、多くの市民の学習意欲の向上につながった。 〇従来の図書館HPIに加え、フェイスブックを開設し、新たな広報機会を提供した。 〇各地区センターを巡回し、書架整理、レイアウト変更及び配架図書の見直しを行ったことで、市民から地区センター図書室が活性化してきたとのご意見をいただいた。 〇「ビプリオバトル中高生大会」において、中高生たちに本と人との出会いを楽しむ機会を提供した。 〇子どもの読書活動推進のための「絵本講演会」、男性職員による読み聞かせ(読みメン)、英語のおはなし会を実施した。 ☆さんさん学習フェスティバルや高齢者学級の参加者が高齢化しており、事業の運営上、健康状態など安全面へのさらなる配慮が必要である。
	B 概ね達成している	改善				
	C 遅れている	見直し		改善		
		完了		見直し		
				完了		

(1)市民が学びやすいまちへ

<施策の方向>生涯学習に関する情報を収集、コーディネートし、必要な情報を必要な人に提供します。講師の派遣や市民の要望に応えた講演会や高齢者学級などを開設するとともに、「学びの場」を提供し、生涯にわたる学習機会の充実を図ります。図書館資料の充実やICT環境の整備などにより、市民の多様な学びを支援する環境を整えます。

担当課	No.	事業名	事業の目的	平成29年度の事業目標	平成29年度の事業内容	評価	成果と課題(〇成果、☆課題)	予算額	執行額
図書館	104 (継)	図書館の利用促進とサービス向上	市民ニーズに対応した学習機会を提供し、市民の生涯にわたる自発的学習を支援する。	市民が自発的に学ぶことができるよう講座、講演会及び企画展等を開催する。 ・さまざまな資料を効果的に収集、整理し提供する。	講座を4回、講演会1回、企画展を3回開催するとともに、約14,000点のさまざまな分野の資料を購入、整理し提供することで、市民の生涯学習を支援した。 ・図書館運営内容の改善や業務の見直しの参考にするため、市民アンケートを実施した。	A	継続 〇講座、講演会には約570人の市民の参加があり、企画展についても多くの市民が来館し、市民の自発的学習を支援した。 〇延べ約273,000人に約864,000点の資料を貸出することで、市民の多様な学びを支援した。 ☆市民が要望する講座、講演会の把握及び効果的な周知	38,850,000	38,672,173

(5) 図書館の充実

＜施策の方向＞ 図書館資料の整備に努めるとともに、県内外の図書館と連携し、図書館サービスの向上を図ります。図書館サービスの地域格差是正のため、地区センター図書室とのネットワークの強化に努めます。市民等のニーズを把握しながら、図書館講座や企画展、講演会などの自主事業の充実を図ります。読み聞かせ等の図書館ボランティアの育成に努めるとともに、関係機関・団体等と連携・協力し、子どもの読書活動を推進します。団体貸出や来館が困難な方に対する宅配制度の充実を図り、図書館サービスの向上に努めます。

担当課	No.	事業名	事業の目的	平成29年度の事業目標	平成29年度の事業内容	評価	成果と課題(○成果、☆課題)	予算額	執行額
図書館	112 (継)	図書館資料整備事業 (資料の充実)	図書館資料の充実を図り、市民の多様な知的要求に応え、読書活動を推進する。	・図書資料、雑誌、新聞及び視聴覚資料など、さまざまな分野の資料を効果的に収集、整理し提供する。 ・自館に所蔵していない資料については、購入または県内外の図書館と連携し借り受けることであらゆる市民の要求に応える。 ・ボランティア及び関係機関と連携・協力し、子どもの読書活動を推進する。	・さまざまな書籍情報等を参考に選書し、選書会議に諮り当館の実情にあった適切な資料整備を図った。 ・貸出し中の資料は予約受付し、所蔵していない資料については、購入または図書館間の相互貸借制度を活用し、市民のリクエストに応えた。 ・学習支援用図書を整備し、各学校に貸出しすることで学校図書館を支援するとともに、子どもの読書活動を推進した。	B 改善	○的確な選書により14,054冊(H28:13,565冊)の図書資料及び344点(H28:329点)の視聴覚資料を購入し、図書館資料の整備を行った。 ○入館者382,473人(H28:410,010人)、貸出利用者273,275人(H28:268,010人)、図書資料の貸出761,457冊(H28:770,506冊)及び視聴覚資料の貸出102,505点(H28:108,963点)の利用があり、市民の読書活動等の推進を図った。 ○県内外の図書館から1,063件(H28:1,542件)、1,231冊(H28:1,665冊)の資料を借り受け、市民のリクエストに応えた。 ○学校図書館支援員との情報連絡会を2回開催するとともに、学習支援用図書を貸出すことで子どもの読書活動推進を図った。 ☆多様な市民ニーズに応えるための資料購入費等の予算確保及び的確な市民の読書傾向把握が必要 ☆すでに資料の収容能力を超えているため、戸田図書館の書庫を整理し本館の書庫としたが、さらなる保存場所の確保が必要	38,000,000	37,866,644
図書館	113 (継)	図書館情報ネットワーク事業	IT技術を活用して図書館情報を市民に発信し、利用者の利便向上と図書館資料の利用促進を図る。 ・戸田図書館及び地区センター図書室と連携し、図書館サービスの地域格差是正を図る。	・ホームページやフェイスブックにさまざまな情報を積極的に掲載し、常に新しい情報を発信する。 ・本館、戸田図書館及び地区センター図書室の業務用端末をオンラインで結び連携を強化することで、利便性を向上させるとともに、巡回指導員が定期的に地区センター図書室を巡回し、図書室の支援を図る。	各家庭のパソコンや携帯電話から、図書館資料の検索や予約を可能とし、市民の学習支援や読書活動を支援した。 また、図書館からのお知らせやイベント情報など、常に新しい情報を積極的に発信した。 地区センター巡回指導員と月1回意見交換の場を設け、各地区センター図書室の要望を聞き地域の実情にあった図書整備を行うとともに、書架整理、レイアウト変更及び図書入れ替え等を行った。	A 継続	○ホームページへのアクセスが236,435件数(H28:132,116件)、オンライン予約が23,382件(H28:25,015件)あり、利用者の利便性を向上させることで利用の促進を図った。 ○各種講座、講演会及びイベントなどの自主事業情報やお知らせをホームページ及びフェイスブックに掲載し、市民に周知することで図書館の利用促進を図った。 ○地区センター図書室の貸出冊数が3,240冊(8.4%増)増加し、貸出利用者数は939人(9.5%増)増加した。 ○地区センター指導員3名と月1回意見交換会を行い、地域の要望に応えた。 ○職員が定期的に各地区センター図書室を巡回し、書架整理、レイアウト変更及び図書の入れ替えなどを行ったことで、市民から地区センター図書室が活性化したとのご意見をいただいた。 ☆本館と地区センター図書室との新たな物流を構築するなど一層のネットワーク強化が必要 ☆地域ボランティアの育成	15,600,000	14,190,559
図書館	114 (継)	図書館自主事業	・さまざまな自主事業を実施することで、図書館資料の活用を促進し、市民の自発的な学習を支援する。 ・子どもを対象とした各種イベントを充実させ、「第2次沼津市子ども読書活動推進計画」の推進を図る。	・市民のニーズにあった各種講演会、講座及び企画展等を開催し、より多くの市民に学習機会を提供する。 ・子どもの読書活動の推進を図れるよう、子どもの本に関する講座や人形劇・読み聞かせなどのイベントを開催する。	・講座を4回、講演会1回及び企画展を3回開催し、また、小学生を対象としたイベントを3回、中学生を対象としたイベントを1回実施した。 ・子どもの読書活動を推進するための「絵本講演会」、「夏休みわくわく図書館」、「名作DVD上映会」及び「おはなしフェスティバル」を実施した。 ・年齢に合わせた多種多様なおはなしの会、英語のおはなし会及び男性職員による読み聞かせ(読みメン)を実施した。	A 継続	○講座は4講座(H28:4講座)延べ8回(H28:10回)開催し、1回平均64人(H28:62人)の参加者があり、講演会は54人(H28:188人)の参加者があった。企画展についても多くの方が来館し、市民の知的活動を支援した。 ○「夏休み図書館子ども探検隊」は、12日間開催(内戸田図書館5日)し、47人(内戸田図書館8人)(H28:51人、内戸田図書館9人)の参加者があり、図書館のしくみや本の調べ方などを学び、図書館に関心を持ってもらうことで利用増につなげることができた。 また、「ピブリオバトル小中学生大会in沼津」は31人(H28:32人)が発表、約142人が観戦(H28:約80人)し、小中学生たちに本と人との出会いを楽しむ機会を提供した。 ○絵本講演会は50人(H28:93人)の参加者があり、「夏休みわくわく図書館」は232人(H28:190人)の参加者があった。「おはなしフェスティバル」は145人(H28:126人)、「名作DVD上映会」は47人(H28:80人)の参加者があり、子どもの読書活動の推進を図ることができた。 ○子どもの読書を推進する活動が認められ、「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受賞 ☆市民が要望する講座、講演会の把握及び効果的な周知	850,000	805,529

3 文化を継承し、発信する

- A 達成又はほぼ達成している
- B 概ね達成している
- C 遅れている

全体評価
A
継続
継続
改善
見直し
完了

点検・評価
○平成27年度まで「地域ふれあいコンサート」として、本格的な音楽コンサートを各地区センターなどで開催し、多くの方々から好評を得てきた。そのノウハウを生かして、「まちなか」でも気軽に本格的な生演奏を身近で楽しめる機会を提供することができた。 ○芹沢光治良生誕120周年記念のDVDを作成し各地区で上映会を開催することで、地元出身の作家を身近に感じられるよう努めた。 ○各文化施設が常設展に加え様々な企画展や催事を実施し、来館者数の増加につながった館があった。 ○長浜城跡については、環境整備(危険木等伐採剪定、除草)を実施するとともに、長浜城北条水軍まつりへ参画し、前年の参加者を上回る多数の参加者が得られ、広く市内外への情報発信が図られた。 ○旧静浦西小の一部が改修され、現文化財センター等の移転計画の見通しができた。 ☆地域の歴史や偉人の業績を学び、子どもたちが「住んでいるところ」を愛する心をはぐくむことができるよう、博物館・文学館の活用、史跡めぐりや体験学習を学校教育に取り入れるなど小中学校との連携が求められる。

(4) 地域史の活用

＜施策の方向＞ 既存の歴史的資料を後世に伝える一方、新たな資料の調査や収集を行い、それらを活用することで郷土に対する理解を深めます。郷土資料などの地域資料を収集、整理、保存し、市民に情報提供します。

図書館	144 (継)	図書館資料整備事業 (地域資料の情報提供)	郷土資料などの地域資料を収集、整理、保存、提供し、市民が沼津の歴史を学び、郷土に対する理解を深めることを支援する。	・図書、雑誌、新聞など、さまざまな情報を確認し、地域に関する資料を積極的に収集する。特に、行政資料は第一級の資料であるため確実に収集していく。 ・地域に関するレファレンスを積極的かつ確実にを行うとともに、記録を蓄積する。	・地域に関する図書や雑誌だけでなく、新聞や雑誌の記事を抜粋し、主題別にファイリングするなど、さまざまな地域資料を収集、整理、保存し提供に努めた。また、年度の古いものや図書館に送られていない行政資料等を調査し、関係機関に連絡するなどして積極的に収集に努めた。 ・市内、県内に限らず県外などからの多くのレファレンスに応えた。	A 継続	○約230件の地域資料に関するレファレンスを行い、市民の郷土に対する理解を深めることを支援した。 ○郷土史研究の団体に協力することで、研究の成果を市民等に還元した。 ☆市役所等で発行している行政資料を確実に収集する方が必要 ☆現在、地域資料に関するレファレンスは紙媒体で記録しているが、検索等を容易にするためのデジタル化が必要 ☆資料購入の増額及び保存場所の確保	38,000,000	37,866,644
-----	------------	--------------------------	---	---	---	---------	---	------------	------------